



横浜港と茨城港常陸那珂港区のつながりについて ～横浜港における国際コンテナ戦略港湾の取組～

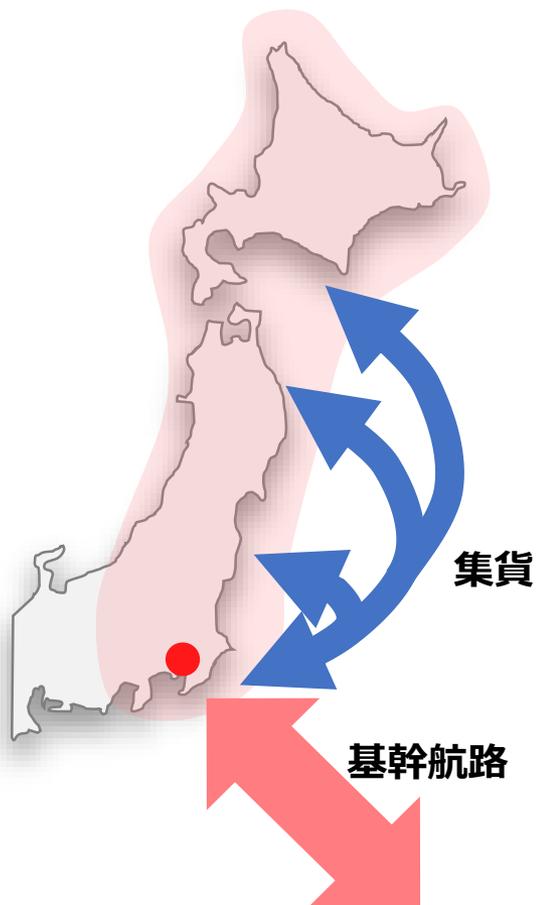
横浜川崎国際港湾株式会社
2025年1月30日



- 1 当社について**
- 2 横浜港の概要**
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進**
 - (1) 横浜港の競争力強化**
 - (2) 創貨の取組**
 - (3) 集貨の取組** ～茨城港との連携について～
- 4 脱炭素化の取組**

- 1 当社について**
- 2 横浜港の概要
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
 - (1)横浜港の競争力強化
 - (2)創貨の取組
 - (3)集貨の取組 ~茨城港との連携について~
- 4 脱炭素化の取組

社名	横浜川崎国際港湾株式会社 Yokohama Kawasaki International Port Corporation (通称：YKIP)
設立日	2016年1月12日 同年3月 港湾法に基づき、国際戦略港湾・京浜港における港湾運営会社に指定。
本社所在地	横浜市西区みなとみらい二丁目3番1号クイーンズタワーA 14階
代表者	代表取締役社長 人見 伸也
資本金等	20億円
株主構成	国(50%)、横浜市(47.25%)、川崎市(2.25%)、 株式会社三井住友銀行(0.45%)、株式会社横浜銀行 (0.05%)
事業内容	横浜港・川崎港におけるコンテナターミナルの管理運営等



**【使命】 国際基幹航路寄港の
維持・拡大**

(欧州・北米・中南米・豪州・アフリカ航路)

**【事業】 コンテナターミナルの整備・運営
東日本各地からの集貨**

- 1 当社について
- 2 横浜港の概要**
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
 - (1)横浜港の競争力強化
 - (2)創貨の取組
 - (3)集貨の取組 ～茨城港との連携について～
- 4 脱炭素化の取組

日本を代表する総合港湾 横浜港

外航船寄港数 国内第1位
(1964年以降60年間連続)

クルーズ船入港数 国内第1位
(2023年、171回)



コンテナ貨物取扱数 国内第2位
(2023年、302万TEU)

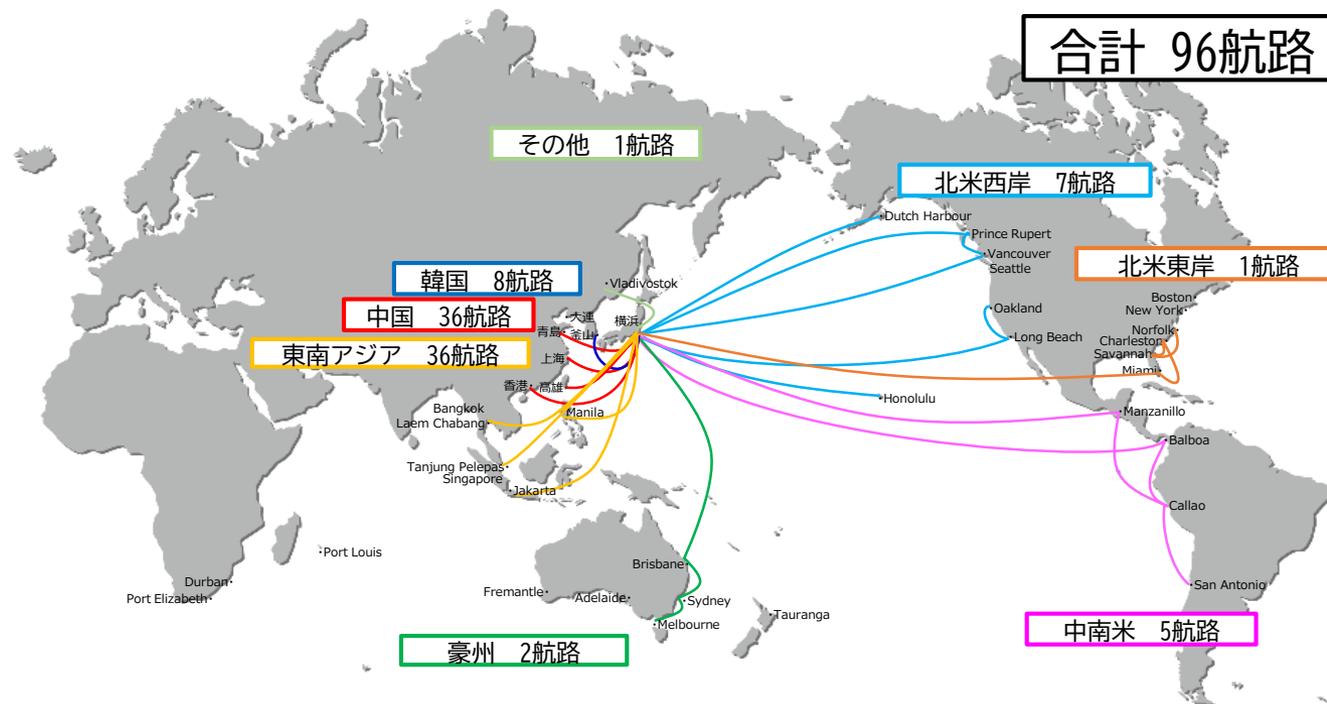
TEU : 20フィートで換算したコンテナ個数

完成自動車取扱台数 国内第3位
(2023年、75万台)





定期コンテナ航路の就航状況(外貿コンテナ)



(2024年12月現在)

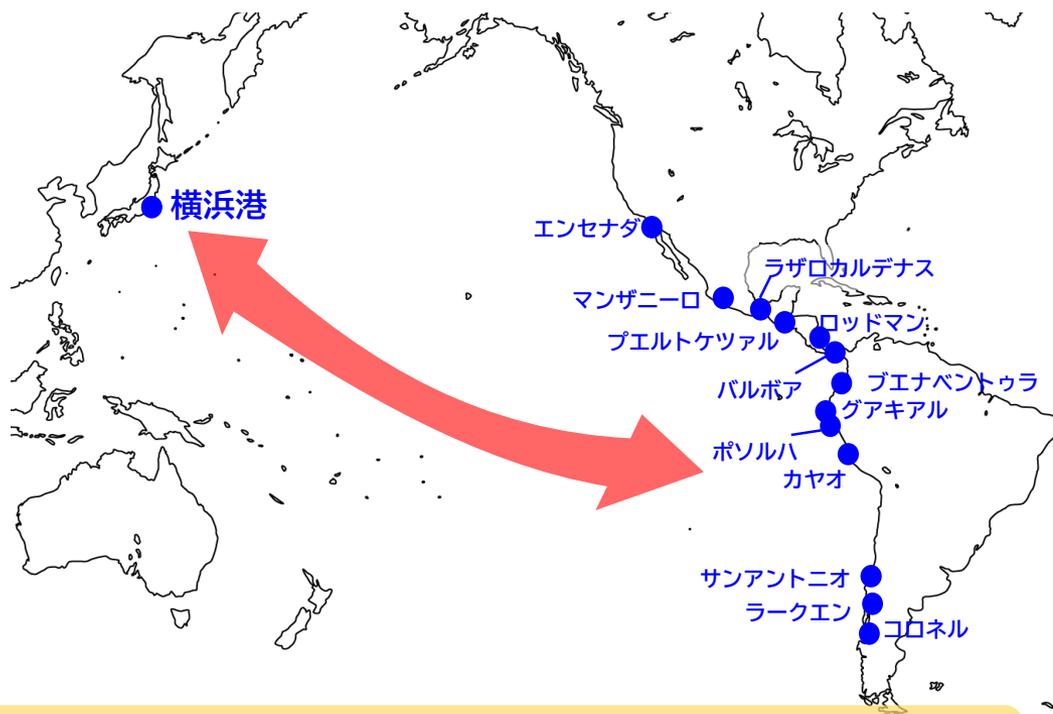
国際基幹航路数

(2024年12月現在)

航路	横浜港	東京港	大阪港	神戸港	名古屋港
北米西岸	7	7	3	4	5
北米東岸	1	0	0	0	0
欧州	0	1	0	1	1
中南米	5	0	0	0	0
豪州	2	1	1	1	0
アフリカ	0	0	0	0	0
合計	15	9	4	6	6

国内最多の基幹航路数

国内唯一の中南米西岸航路が寄港



直行便で中南米へ輸出入可能

【中南米から輸入されている品目】

順位	品目
1	野菜・果物
2	畜産品
3	水産品
4	飲料
5	その他農産品（コーヒー豆等）

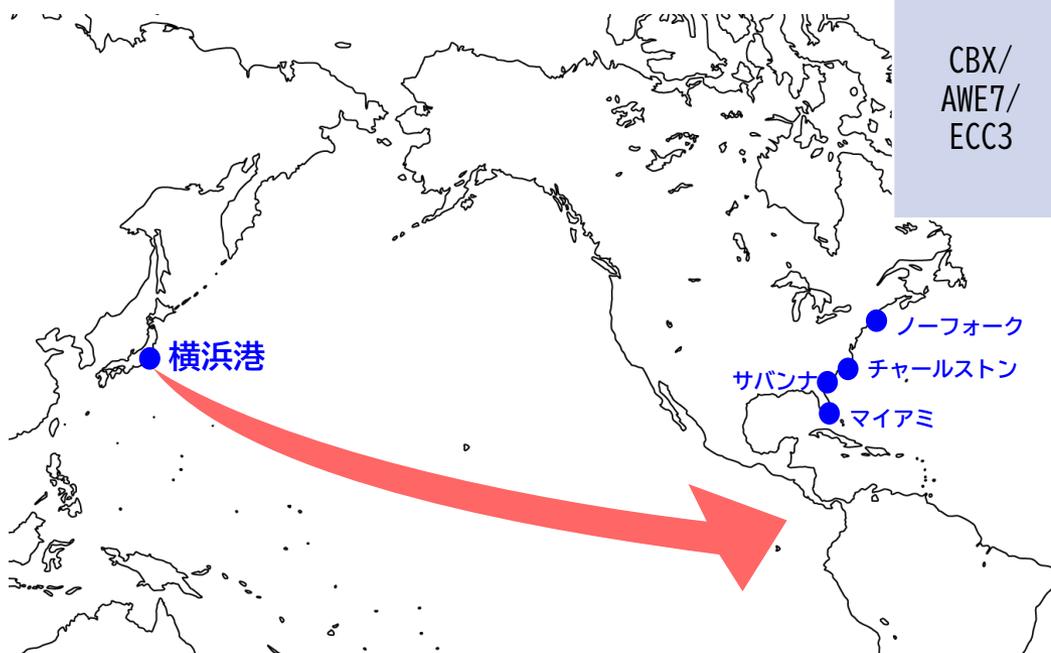
【中南米へ輸出されている品目】

順位	品目
1	自動車部品
2	電気機械
3	ゴム製品
4	染料等化学工業品
5	産業機械

■中南米西岸航路一覧

航路名	運航事業者	寄港地
ACSA1/WSA4	CMA CGM/COSCO/ Evergreen	寧波 - 上海 - 釜山 - エンセナダ - ブエナビントウラ - カヤオ - ポソルハ - 横浜 (木/金) - 寧波
ACSA2/WSA3	CMA CGM/COSCO	香港 - 廈門 - 寧波 - 青島 - 上海 - マンザニーロ - チャンカイ - サンアントニオ - マンザニーロ - エンセナダ - 横浜 (土/日) - 釜山 - 廈門
AC2	Maersk	上海 - 青島 - 釜山 - 横浜 (火/水) - ラザカレナス - マンザニーロ - ハルマア - ラザカレナス - マンザニーロ - 上海
AN2/NW2/ Andes Express/ ALX2	Hapag/HMM/MSC/ ONE	上海 - 廈門 - 蛇口 - 香港 - 寧波 - 釜山 - マンザニーロ - ラザカレナス - ロットマン - ブイハンチラ - カオ - サンアントニオ - ラケイン - コル - カオ - マンザニーロ - ラザカレナス - 横浜 (月/火) - 釜山 - 上海
TPM/NW3/ Aztec Service/ ALX3	Hapag/HMM/MSC/ ONE	寧波 - 上海 - 青島 - 釜山 - 横浜 (水/木) - エンセナダ - マンザニーロ - プルトケアル - ロットマン - ブイハンチラ - カオ - グアヤル - ブイハンチラ - ロットマン - ラザカレナス - マンザニーロ - エンセナダ - 横浜 (土/日) - 釜山 - 寧波

国内唯一の北米東岸航路が寄港



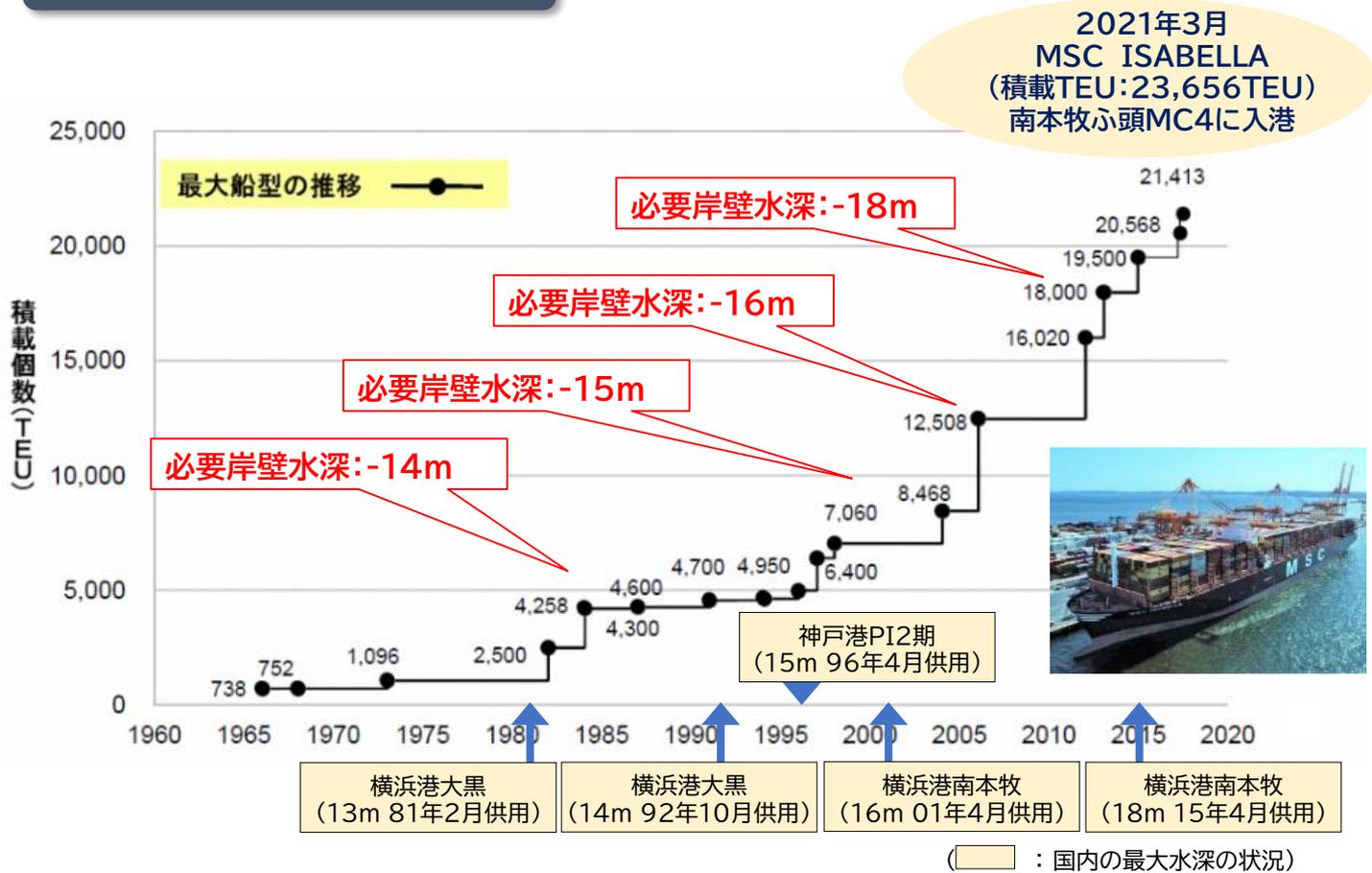
航路名	運航事業者	寄港地	寄港曜日
CBX/ AWE7/ ECC3	Ocean Alliance	ポートケラン - ハイフォン - 塩田 - 寧波 - 上海 - 釜山 - 横浜 (土) - ノーフォーク - サバンナ - チャールストン - マイアミ - ポートケラン	土

直行便で北米東岸へ輸出可能

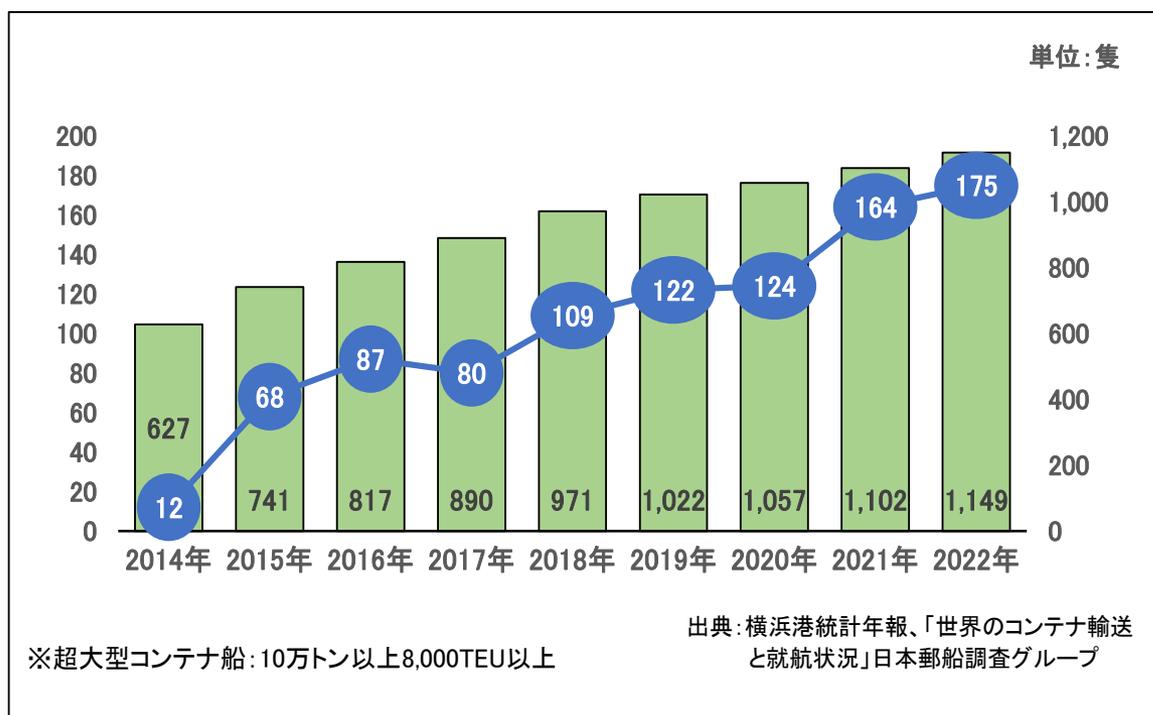


北米東岸航路の初入港船
「APL Qingdao」 最大積載数:10,106TEU

コンテナ船の超大型化



横浜港の超大型コンテナ船※の入港隻数と世界の就航隻数の推移



- 1 当社について
- 2 横浜港の概要
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進**
 - (1)横浜港の競争力強化
 - (2)創貨の取組
 - (3)集貨の取組 ～茨城港との連携について～
- 4 脱炭素化の取組

国際コンテナ戦略港湾

国際コンテナ戦略港湾の「競争力強化」

- コンテナ船の大型化や取扱貨物量の増大等に対応した大水深コンテナターミナルの機能強化
- 良好な労働環境と世界最高水準の生産性を確保するため、「ヒトを支援するAIターミナル」を実現

国際コンテナ戦略港湾背後への産業集積による「創貨」

- 荷さばき、流通加工、保管等の複合機能を有する物流施設のコンテナターミナル近傍への立地を促進

国際コンテナ戦略港湾への「集貨」

- 国内外とのフィーダー航路網の強化の促進

※令和4年国際コンテナ戦略港湾政策推進WG（第4回）より一部抜粋

横浜港の取組

●横浜川崎国際港湾株式会社(YKIP)の設立(2016.1)

- 南本牧、新本牧ふ頭における大水深・高規格コンテナターミナルの整備

- 本牧、南本牧、新本牧ふ頭におけるロジスティクス拠点形成の整備

- 国の負担金支援によるYKIPの航路網拡充等の集貨活動
- 国際フィーダー網の拡充

3(1) 横浜港の競争力強化



南本牧ふ頭コンテナターミナルの整備

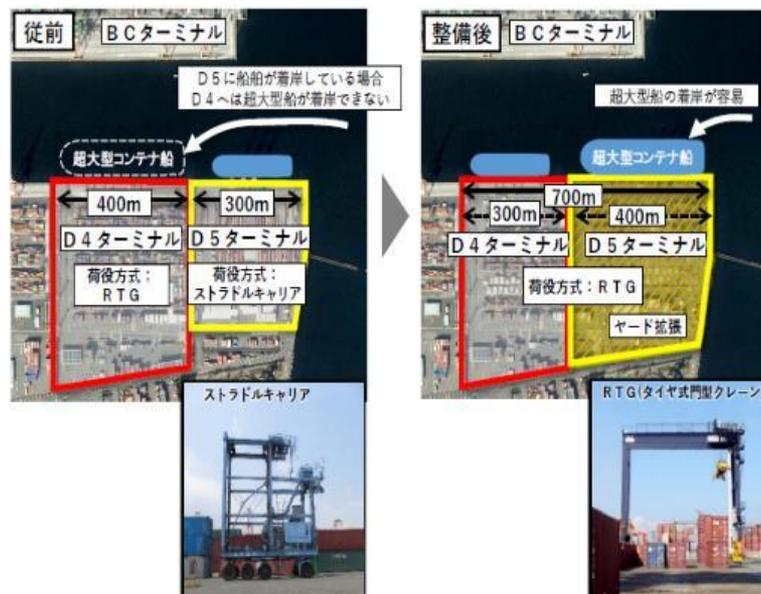
- 国内最大唯一の水深-18m、延長1,600mの岸壁
⇒世界最大の超大型コンテナ船の受入が可能
- 2021年より一体運用を開始し、多方面の航路の船舶が船型やスケジュールなどに応じ、施設全体を柔軟に利用できる**画期的な運用が実現**



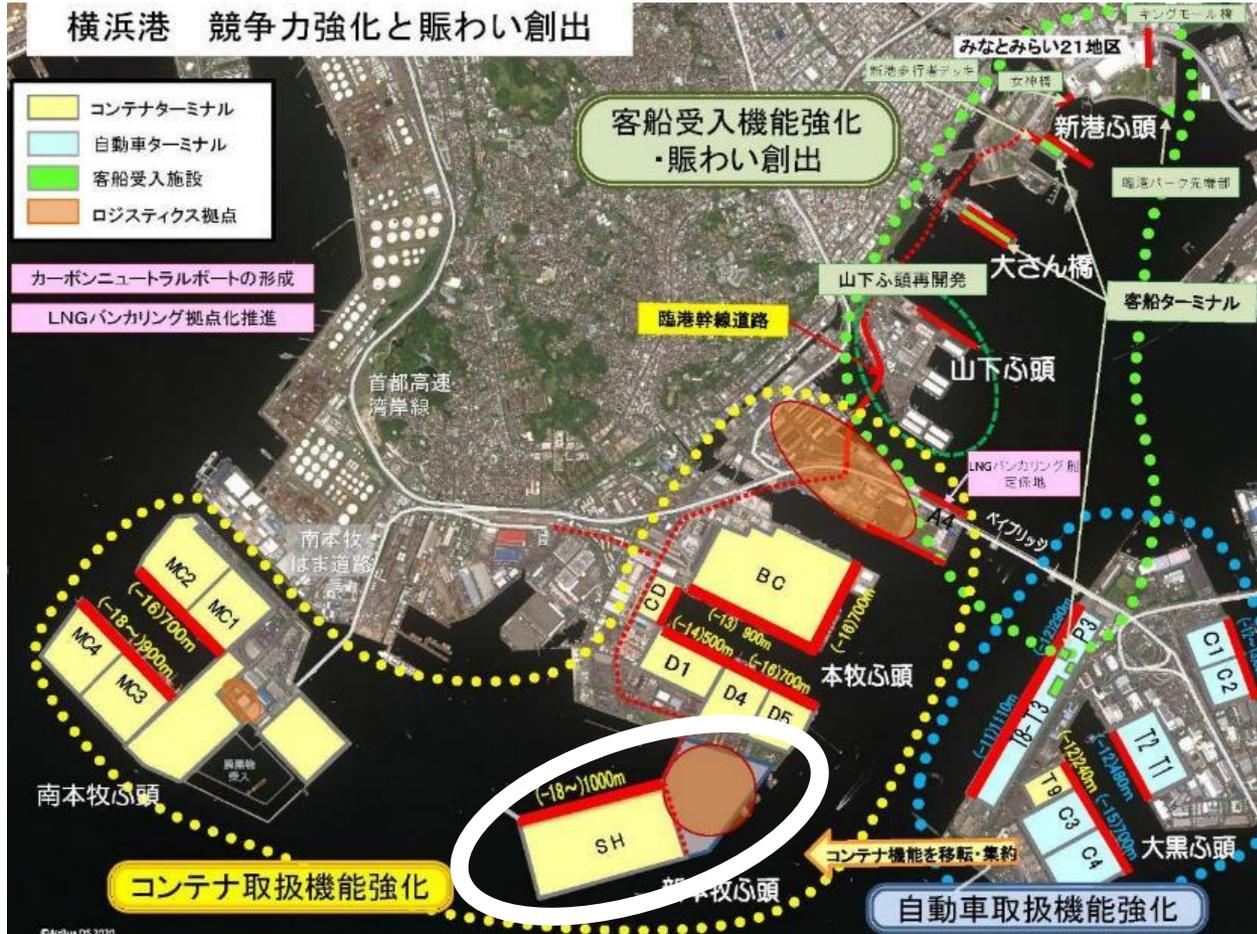
南本牧ふ頭に寄港する超大型コンテナ船「MSC ISABELLA」最大積載数:23,656TEU

本牧ふ頭コンテナターミナルの再整備

- 現状、D5ターミナルに船舶が着岸している場合に、D4ターミナルへの超大型船の着岸ができないため、**D4・D5の一体運用**を進める。
- ヤードの拡張等の再整備を実施**
- D5ターミナルの荷役方式をストラドルキャリアから、**生産性の高いRTG** (タイヤ式門型クレーン)に転換



3(1) 横浜港の競争力強化



新本牧ふ頭の整備(2021年度から埋立開始)

- 水深-18m以上、延長1,000mの岸壁を持つ高規格コンテナターミナル
- 高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設
- これらを一体的に配置した最新鋭の物流拠点の形成を目指す。



【新本牧ふ頭整備イメージ図】

水深 (-18m~) 延長 (1000m)	第1期地区 ロジスティクス用地等 【約40ha】 事業者：市
第2期地区 コンテナターミナル等 【約50ha】 事業者：国土交通省	



横浜港の国際競争力

コンテナ港湾の効率性を測る指標「CPPI」で、2020年に横浜港が世界一を獲得

○世界銀行は、2020年コンテナ港湾生産性指数において横浜港が世界一と発表

○横浜港における効率的なコンテナターミナルの運営や高品質な港湾サービスが総合的に評価

CPPI 2020 ランキング (2023年は9位)

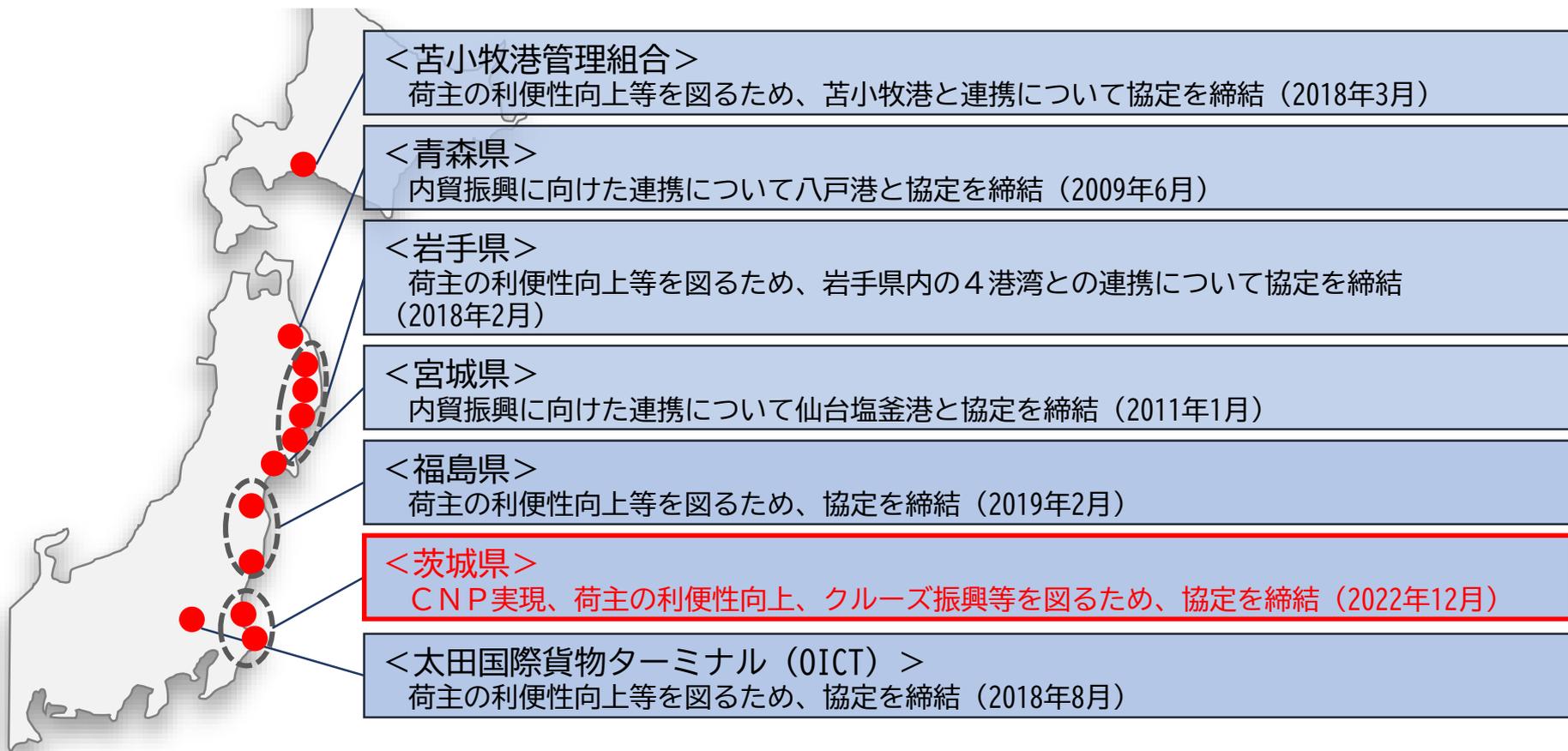
Rank	Port name
1	YOKOHAMA
2	KING ABDULLAH PORT
3	QINGDAO
4	KAOSHIUNG
5	SHEKOU
6	GUANGZHOU
7	HONG KONG
8	ZHOUSHAN
9	SALALAH
10	YANGSHAN



“Container Port Performance Index 2020” ©World Bank & IHS Markit



国内港湾との連携による集貨の取組





記者発表資料

令和4年12月21日
横浜市港湾局
茨城県土木部

茨城県と横浜市は、脱炭素化や産業の活性化等、 茨城県内港湾と横浜港の発展に向けた連携協定を締結しました

茨城県と横浜市は、産業や地域の活性化に資するとともに環境負荷低減や労働人口減少等といった社会課題への対応を目的として、茨城県内港湾と横浜港の連携を図るため本協定を締結しました。

- 1 締結日 令和4年12月21日（水）
- 2 場所 都道府県会館
- 3 協定締結者 茨城県知事 大井川 和彦
横浜市市長 山中 竹春
- 4 協定内容

カーボンニュートラルポートの実現、海上輸送ネットワーク強化による荷主の利便性向上、クルーズ客船誘致・受入の推進などに向けた連携体制の強化による両港の発展に向けて、相互協力体制を構築します。



締結の様子（左から茨城県 大井川知事、横浜市 山中市長）

お問合せ先	
横浜市港湾局物流運営課担当課長 山本 智	Tel:045-671-2919
茨城県土木部港湾課港湾経営室（港湾振興）室長補佐 渡辺 伸幸	Tel:029-301-4536

茨城県内港湾と横浜港の連携に関する協定書

茨城県と横浜市は、産業や地域の活性化に資するとともに環境負荷低減や労働人口減少等といった社会課題への対応を目的として、茨城県内港湾と横浜港の連携を図るため本協定を締結し、カーボンニュートラルポートの実現、海上輸送ネットワーク強化による荷主の利便性向上、クルーズ客船誘致・受入の推進などに向けた連携体制の強化による両港の発展に向けて、相互協力体制を構築するものとする。

令和4年12月21日

茨城港・鹿島港港湾管理者

茨城県知事

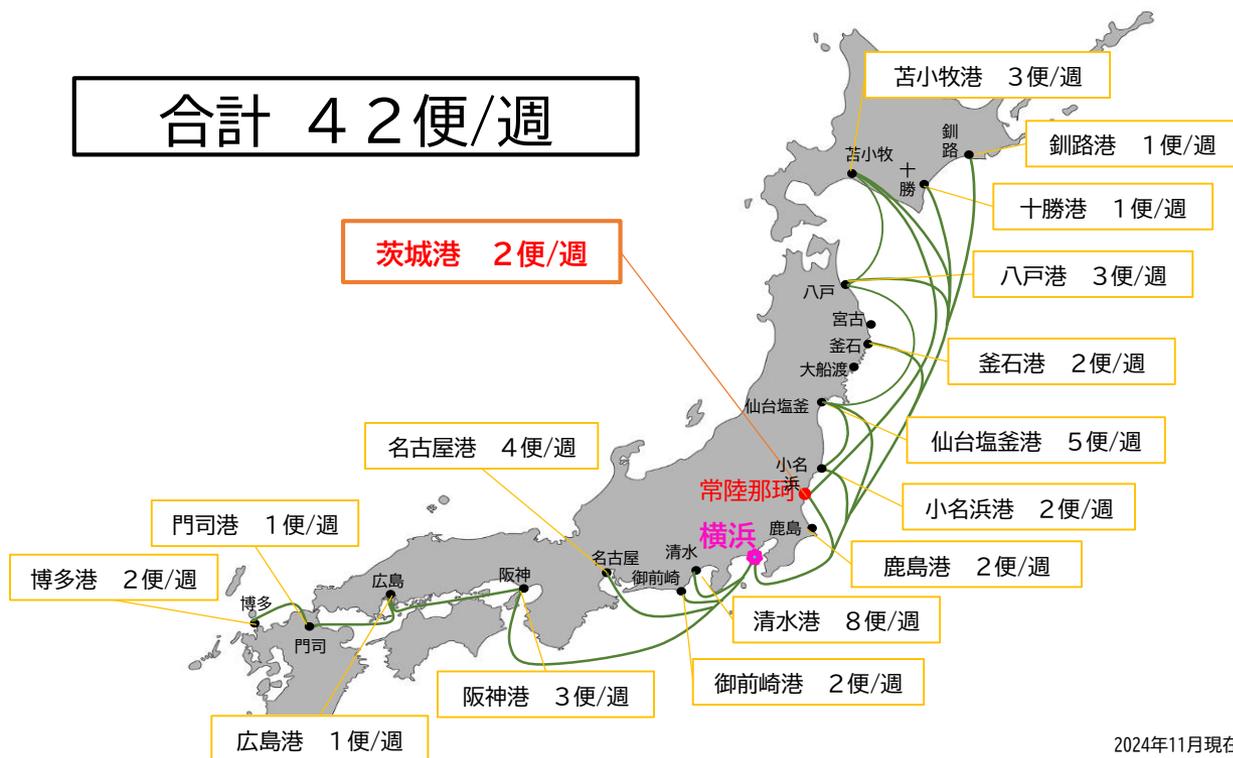
大井川 和彦

横浜港港湾管理者

横浜市市長

山中 竹春

横浜港に寄港する国際フィーダー航路



2024年11月現在

横浜港のコンテナ取扱量

302万TEU

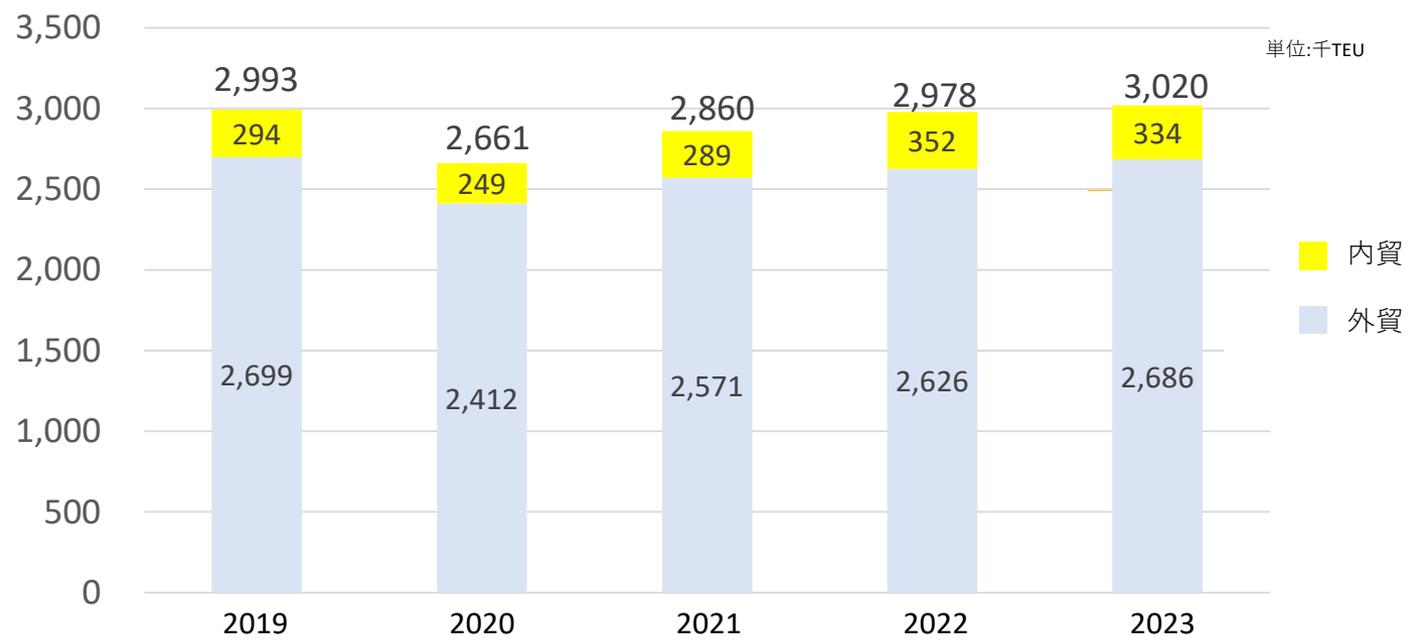
外貿：268万TEU

内貿：33万TEU

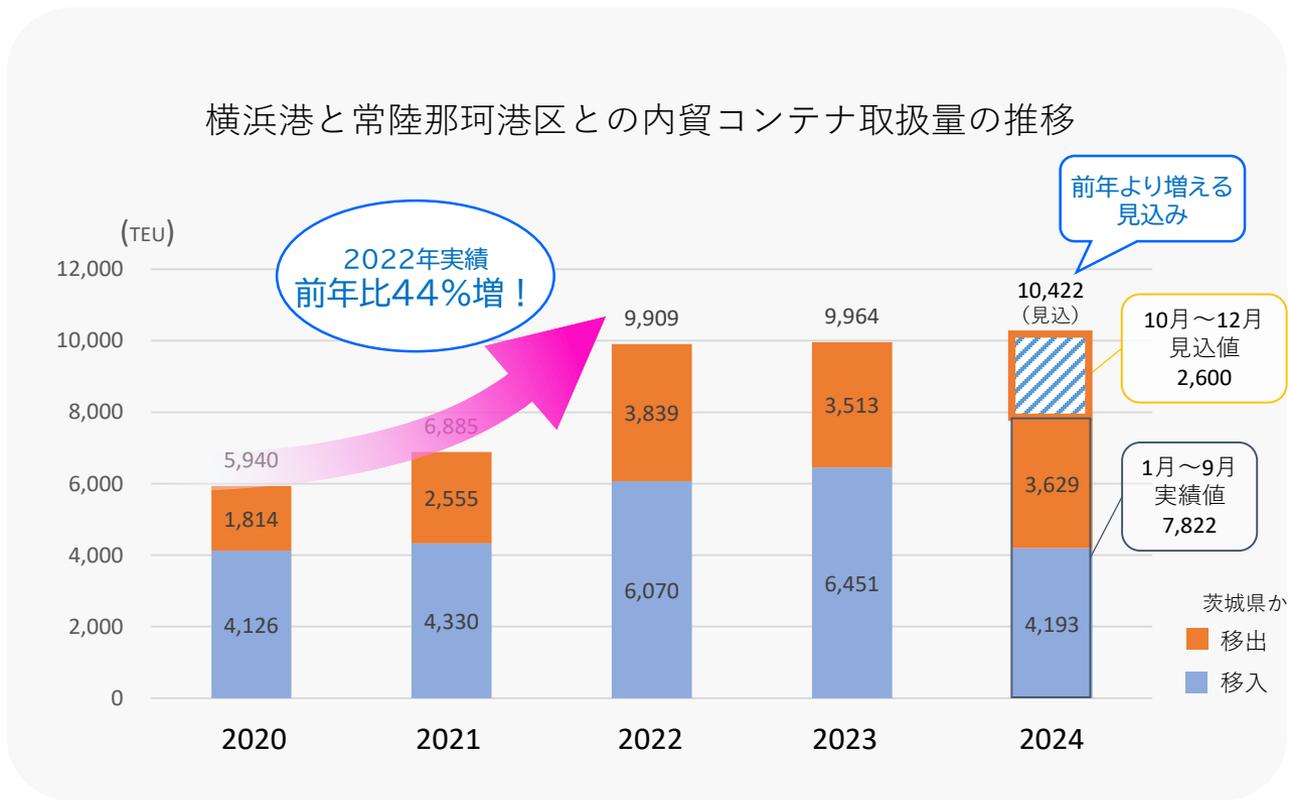
2021年以降連続して増加しており
コロナ禍前の水準に戻りつつある

単位:千TEU

	2019	2020	2021	2022	2023
外貿	2,699	2,412	2,571	2,626	2,686
内貿	294	249	289	352	334
合計	2,993	2,661	2,860	2,978	3,020



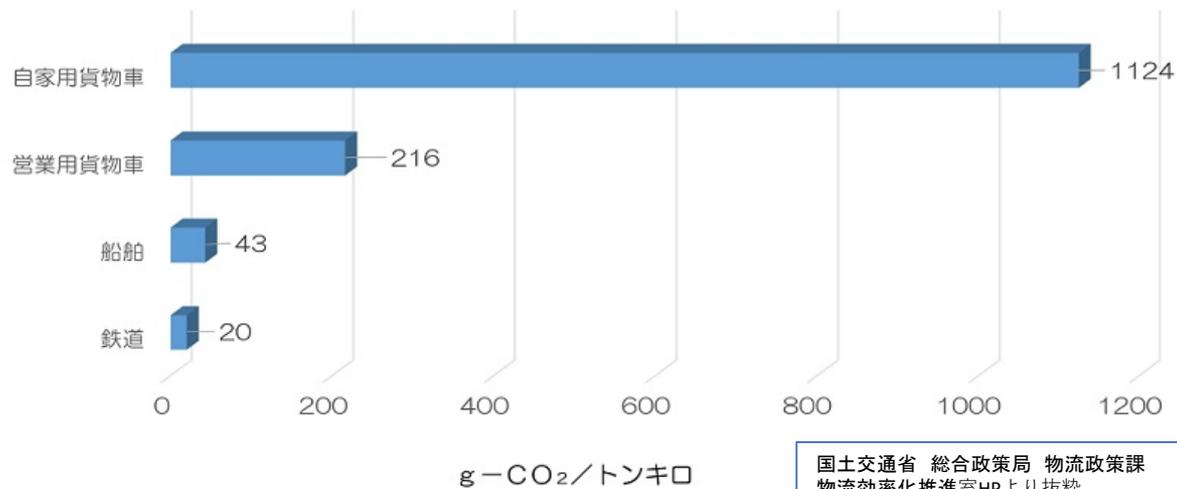
茨城港常陸那珂港区との内貿コンテナ取扱量



2025年1月現在

- **トラックドライバー2024年問題対応** 長距離輸送は、、、
- **物流の脱炭素化** 船や鉄道に脚光！

輸送量当たりの二酸化炭素の排出量（2021年度 貨物）



茨城港と横浜港の国際フィーダーを活用した物流を選択肢に！

国際フィーダーサービス一覧

接続する 外航船社	運航船社	輸出入先地域	問い合わせ先
CMA CGM JAPAN	横浜コンテナライン	北米、中南米、豪州、東南 アジア、韓国、中国	https://www.cma-cgm.com/static/JP/attachments/NICE%20CX-ONE%E5%B0%8E%E5%85%A52%207-11-23.pdf
COSCO	横浜コンテナライン	北米、中南米、豪州、東南 アジア、中国、欧州、 ニュージーランド、中東、 アフリカ	営業推進サポートチーム 03-6328-2087
Interasia Lines	横浜コンテナライン	東南アジア、中国	運航部 03-3580-6555
Maersk	井本商運	北米、中南米、東南アジア、 中国	カスタマーサービス (輸出入) 050-4560-2762
ONE	井本商運	中南米、アフリカ、豪州、 東南アジア	https://jp.one-line.com/ja/jp-contact-information ※担当がお判りの場合は、直接各担当までご依頼 願います。
OOCL	・井本商運 ・鈴与海運 ・OOCL専用船（鈴与海運）	北米、中南米、豪州、東南 アジア、韓国、中国	https://www.oocl.com/japan/jpn/localinformation/localcontacts/Pages/default.aspx

2025年1月現在

支援メニュー	概要
国際トランシップ事業支援	横浜港・川崎港での、国際基幹航路による国際トランシップを支援
国際フィーダー・鉄道輸送への転換促進支援	北日本・東日本各地から海外へ直接輸出入または、京浜港との間を陸上トラック輸送し輸出入されている貨物を、横浜港経由の内航フィーダーまたは鉄道輸送に利用転換する場合、貨物量に応じ支援
港内ショートドレージ支援	国際フィーダーコンテナ貨物が、横浜港内の異なるコンテナターミナル間のドレージ輸送が必要となった場合、または、鉄道貨物駅と横浜港内コンテナターミナル間のドレージ輸送が必要となった場合に、このドレージ輸送費用を支援
基幹航路支援	横浜港・川崎港へ寄港する基幹航路（北米・欧州・中南米・豪州・アフリカ航路等）の開設・増便を支援
国際フィーダー航路支援	横浜港・川崎港へ寄港する国際フィーダー網の強化に資する取組を支援
南本牧ふ頭 超大型コンテナ船タグボート配船費用支援	MC-3・4岸壁にて超大型コンテナ船の入出港時に、タグボートが4隻以上必要となる場合、配備費用の一部を支援

ポートセールスの実施

①海外における横浜川崎港湾セミナーの開催

新たな国際コンテナ戦略港湾政策に位置付けられた「東南アジアからの集貨」に向け、2024年7月17日、タイ王国バンコク市にて、タイ港湾庁、日本大使館及び国土交通省を招き、船会社、物流事業者、荷主企業を対象としたセミナーを開催（105名の参加があり好評）



澤田 孝秋 国土交通省
港湾局港湾経済課長



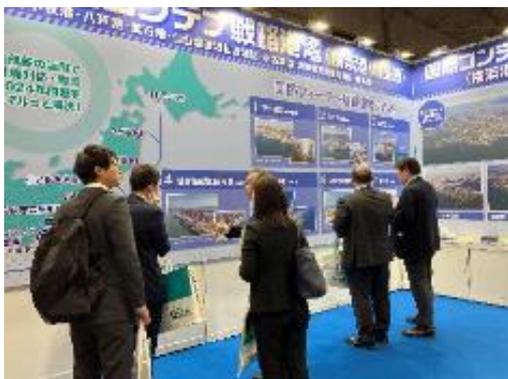
横浜川崎国際港湾株式会社
代表取締役社長 人見 伸也

ポートセールスの実施

②東日本各港湾と連携したセミナーの開催等

各地の物流事業者、荷主企業等を対象に、国際フィーダー航路網へのモーダルシフトをPRし、横浜港への集貨につなげる。

- ・ 関西物流展出展（4月10～12日、大阪市）
- ・ 「いわての港湾」利用促進セミナー（8月8日、盛岡市）
- ・ 横浜港～宇都宮鉄道輸送に関する説明会（9月25日、宇都宮市）
- ・ 2024横浜川崎港湾セミナーin宮城（11月20日、仙台市）



- 1 当社について
- 2 横浜港の概要
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
 - (1)横浜港の競争力強化
 - (2)創貨の取組
 - (3)集貨の取組 ～茨城港との連携について～
- 4 脱炭素化の取組

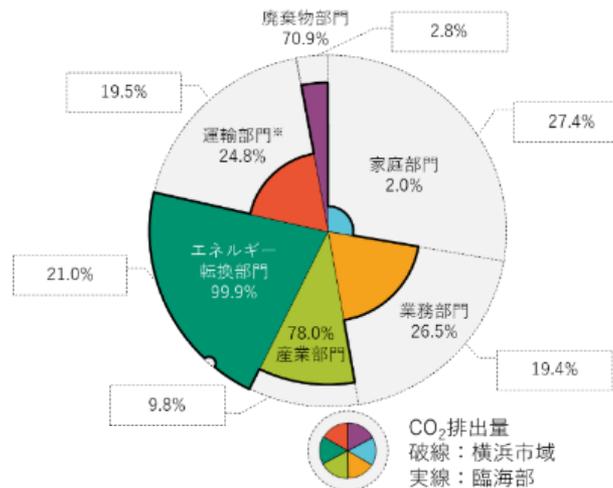
横浜市臨海部から排出される二酸化炭素排出量

- 横浜港は、埠頭における**物流機能**に加えて、京浜臨海部・根岸地区等における**生産機能**、都心臨海部等における**観光文化機能**を持つ
- 「横浜市臨海部」から排出されるCO₂排出量は横浜市域全体の**約4割**に当たる

横浜市臨海部から排出される二酸化炭素排出量 (単位：万トン)

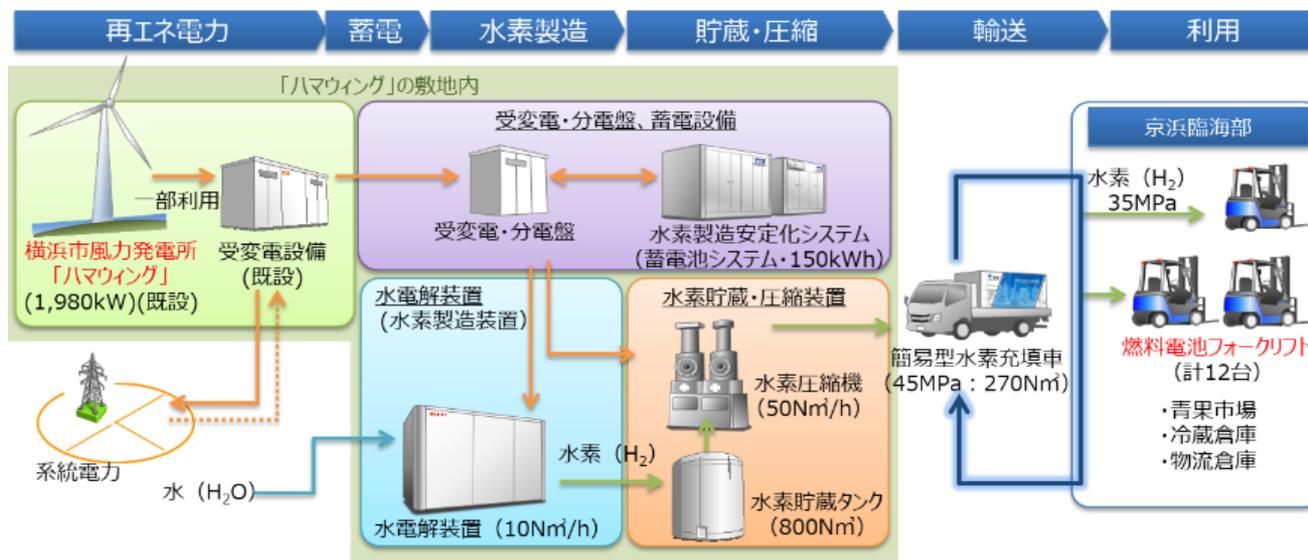
2021年度[速報値] (令和3年度)	臨海部		横浜市域		臨海部 /市域
	排出量	構成比	排出量	構成比	
エネルギー転換部門	356.2	51.0%	356.6	21.0%	99.9%
産業部門	130.1	18.6%	166.8	9.8%	78.0%
業務部門	87.0	12.5%	328.2	19.4%	26.5%
運輸部門*	81.9	11.7%	330.9	19.5%	24.8%
廃棄物部門	34.0	4.9%	47.9	2.8%	70.9%
家庭部門	9.5	1.4%	464.8	27.4%	2.0%
合計	698.7	100.0%	1695.2	100.0%	41.2%

※停泊中の外航船舶からの排出量18.1万トンを含む。



臨海部における民間事業者等と連携した取組

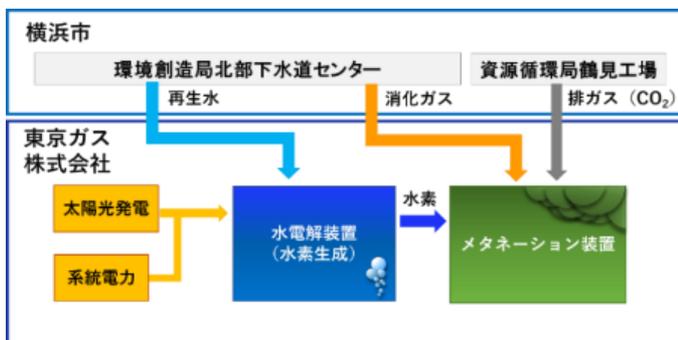
○風力発電による水素活用実証事業(2015～2020年度)
 風力発電所ハマウイングにより製造した水素を燃料電池フォークリフトに
 使用する水素供給システムの実証実験



臨海部における民間事業者等と連携した取組

○メタネーションの実証試験(2022年～継続)

ごみ焼却工場や下水道センターからバイオマス由来のCO₂等の資源を供給
都市ガスの主成分となるメタンを生成するメタネーションの実証試験



メタネーションの実証試験

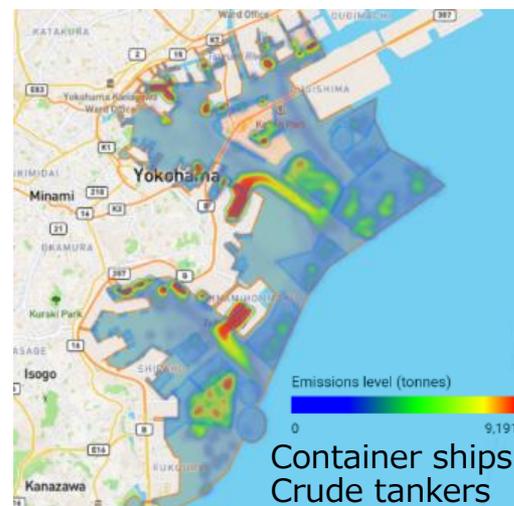
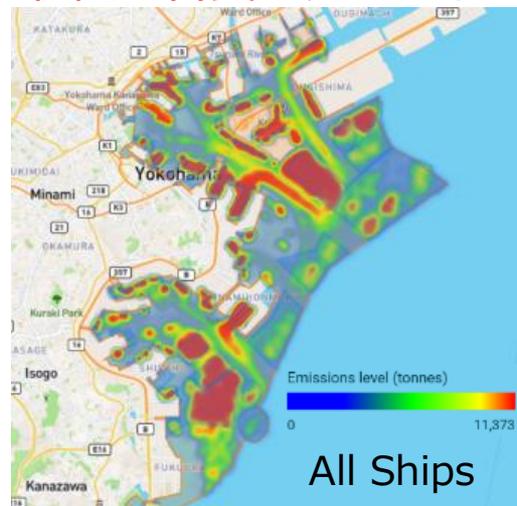
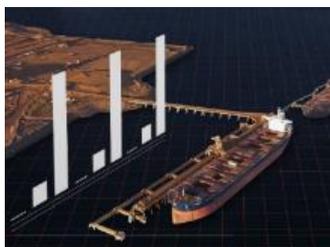


未広脱炭素化モデル地区

日本初！船舶からの排出ガスの可視化サービスの活用

RIGHTSHIP

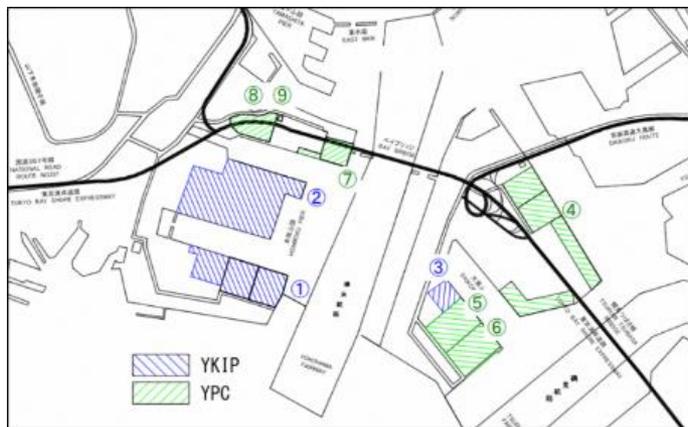
○港湾内の船舶から排出される CO₂ 等の排出ガスを把握するため、Right Ship社の「Maritime Emission Portal」を活用し、削減に向けた取組を官民で進める。



ライトシップ社とは
2001年に設立。本社はオーストラリア・メルボルン。ESGにフォーカスした世界有数のデジタル海事プラットフォームであり、グローバルな安全性、持続可能性、社会的責任の実践に関する専門知識を提供。現在では800社以上の顧客がライトシップ社のデューデリジェンス、環境、検査サービスを利用しており、リスク管理と全体的な海上安全基準の向上を支援している。
www.rightship.com

民間事業者等による脱炭素化に向けた取組

- 横浜川崎国際港湾株式会社(YKIP)、横浜港埠頭株式会社(YPC)等による再生可能エネルギー由来の電力を使ったターミナル運営



所管	施設名	用途
YKIP	① 本牧 D1・D4・D5 コンテナターミナル	コンテナターミナル
	② 本牧ふ頭 BC 炭蔵	コンテナターミナル等
	③ 大黒ふ頭 T9 ターミナル	コンテナターミナル
YPC	④ 大黒ふ頭総合受電所	自動車ターミナル/ライナーターミナル
	⑤ 大黒ふ頭 C3 自動車ターミナル [建設費と土地の確保が完了済み(2022/10~)]	自動車ターミナル
	⑥ 大黒ふ頭 C4 自動車ターミナル [建設費と土地の確保が完了済み(2022/4~)]	自動車ターミナル
	⑦ 本牧ふ頭 A8 ターミナル	バスターミナル
	⑧ 本牧ふ頭 A8 シャーシ留置場	その他、シャーシ留置場など
	⑨ 本牧ふ頭 A 突揚舎受電所	その他

再生エネルギー由来の電力を供給する施設

民間事業者等による脱炭素化に向けた取組

- 電気推進タグボートの運航やアンモニア燃料タグボートの実証運航
- 将来の水素燃料電池へ換装可能な荷役機械（RTG）の導入
- 環境配慮船※へのインセンティブ制度の実施

※LNG燃料船、LNG燃料供給船、IAPH（国際港湾協会）が運営するESI制度の認証を受けた船舶など



全電気推進タグボート
東京汽船株式会社 提供



アンモニア燃料船タグボート
日本郵船株式会社 提供



LNGバンカリング船
エコバンカー SHIPPING 株式会社 提供

日本初！横浜港におけるグリーンメタノールの利用促進に向けて覚書を締結

○世界最大級のコンテナ船運航会社であるマースクAS^{※1}、我が国のメタノール供給最大手である三菱ガス化学株式会社及び横浜市は、次世代船舶燃料としてのグリーンメタノールの利用促進検討に関する覚書を締結（2023年12月）



左からマースクAS駐日代表山本様、横浜市山中市長、三菱ガス化学株式会社代表取締役社長藤井様（横浜市庁舎にて）

船舶燃料としてのメタノール及びグリーンメタノールの供給方法について連携して検討し、関係官庁の協力を得ながら、日本初のメタノールバンカリング^{※2}の実現に向けて取り組みます。

※1 ASはデンマーク語で株式会社の意味です。

※2 バンカリングとは船舶に燃料を供給することを意味します。

メタノールバンカリングシミュレーションの実施

○2024年9月、横浜港においてマースク社が運航するメタノール燃料コンテナ船とメタノール輸送内航船との間で**模擬的なバンカリングを実施**

国による「メタノールバンカリング拠点のあり方検討会」の開催

○同9月、港湾の競争力強化と脱炭素社会の実現に必要な拠点形成に向けて関係行政機関及び民間事業者からなる**検討会を設置、検討を開始**



豊かな海づくり「ブルーカーボン」の取組と市民の連携

○新本牧ふ頭における**生物共生型護岸**の整備



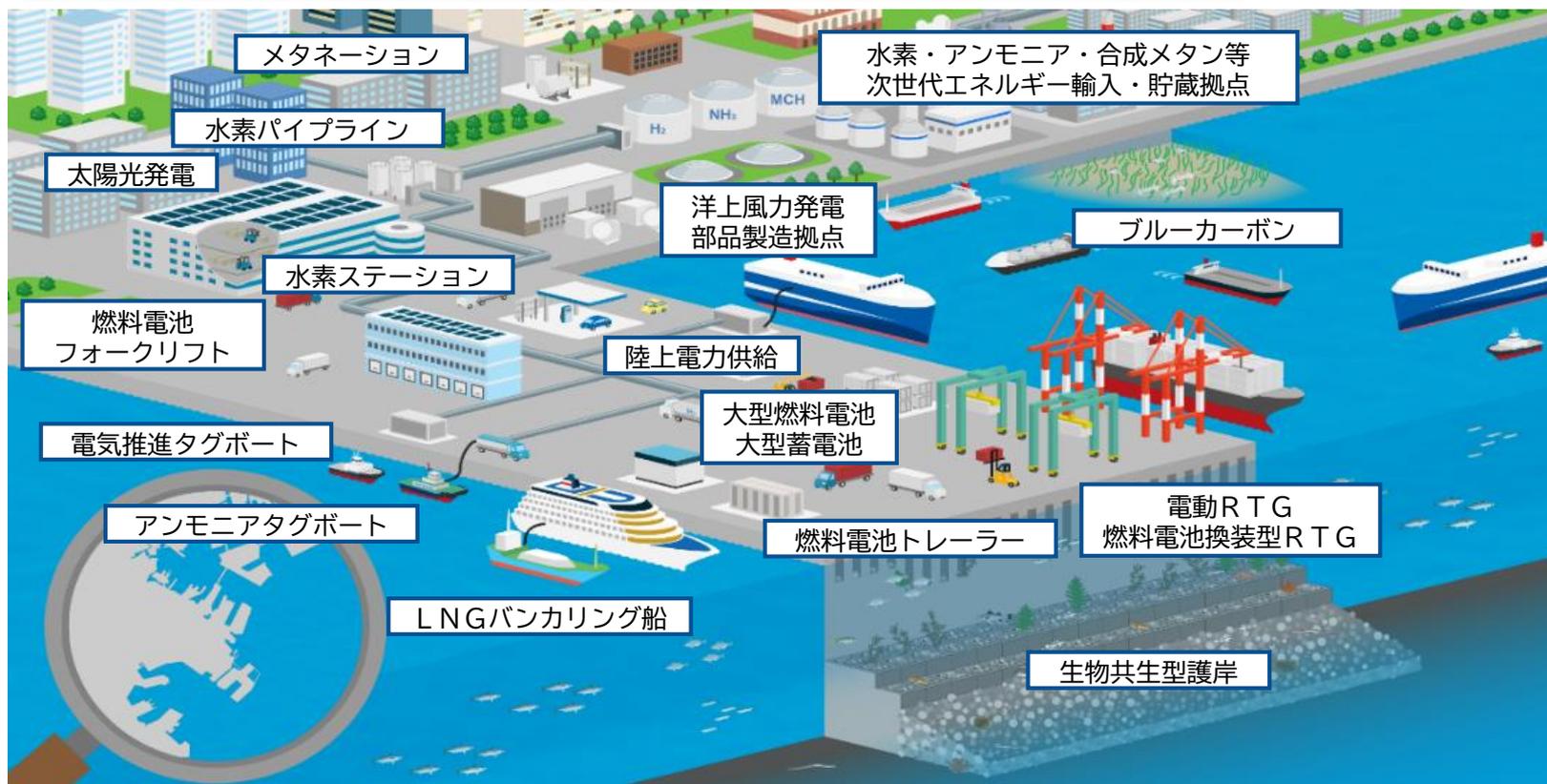
○**市民連携**による活動



○森林と同程度のCO₂を吸収する**藻場・浅場の形成等**



横浜港におけるカーボンニュートラルポート形成のイメージ



カーボンニュートラルポートとしての国際連携



2022. 5. 23 日米首脳共同声明



2022. 5. 24 日米豪印首脳会合

- ・カーボンニュートラルポート形成について日米協力
- ・日米両政府・ロサンゼルス港湾局と共に
港湾の脱炭素化に向けたワークショップを開催
- ・日米豪印首脳会談（QUAD）の枠組みで**横浜・ロサンゼルス・シドニー
・ムンバイの4港が連携**、海運・港湾運営の脱炭素化を目指す

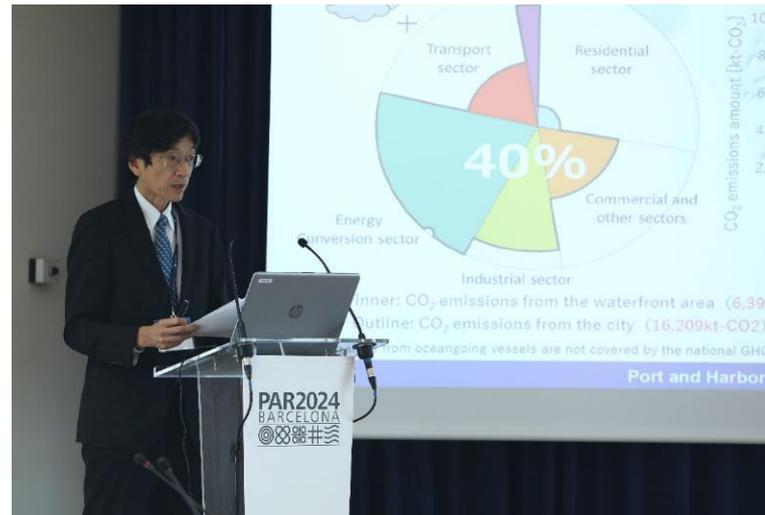
出典：外務省ホームページ (https://www.mofa.go.jp/mofaj/na/na1/us/page3_003322.html)
首相官邸ホームページ (https://www.kantei.go.jp/quad-leaders-meeting-tokyo2022/index_j.html)

カーボンニュートラルポートとしての国際連携

- ・2024年10月7日、ハンブルクで開催されたサステナビリティ会議に参加。国際海運の脱炭素化に関する「ハンブルク宣言」に横浜市とともに署名（アジアから唯一）。また、10月8日～10日、同市にて開催されたIAPH World Ports Conference 2024では、各港の代表者や総領事と意見交換を行い、人的ネットワークの強化を図った。
- ・11月4日にはバルセロナでのポートオーソリティー・ランウンドテーブルに参加し、横浜港と川崎港の世界的なプレゼンス向上、人的ネットワークの強化を図った。



マイヤーIAPH会長と高田YKIP副社長
(IAPH World Port Conference 2024 ハンブルク)



カーボンニュートラルに関する取り組みを紹介
(Port Authorities Roundtable バルセロナ)

グリーン SHIPPING コリドーの形成



ご清聴ありがとうございました

